

本日の学び テーマ:「いつもあなたがたと共に」 テキスト:マタイ28章16節-20節

【理解の手がかりとして】

イースターをむかえて、教会暦で言えば復活節の中を歩んでいる。今課は、復活のイエス様が弟子たちにお命じになった内容である。使徒言行録の1章にこのように記されている。「イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。」(使徒 1:3) と。イエス様は十字架にかかり死なれ、墓に葬られて、その後三日目に復活なさった。その復活の姿を目撃した人々は少なくない。それぞれの福音書を総合して言うと、まずマグダラのマリアがその最初の目撃者となった。次いで他の婦人たち、エマオに向かう二人の弟子、ペトロ、十人の使徒たち、そして疑り深いトマスという順になる。このように、復活の主は次々にご自分が生きておられることを弟子たちにお示しになった。それは決して幻想ではなく、一緒に食事をなさったり、手足をお見せになったりしての確かな出来事であった。

しかし復活の主に出会ったのは、側近の弟子たちだけでなく、もっと多くの人々もいた。第一コリント 15 章に使徒パウロが次のように記している。「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました」(第一コリント 15:3-6) と。ここに「同時に現れました」とあるように、復活の主は生前の人間としての姿をお持ちでありつつ、霊なるお方である。空間、物理的な制限を越えて、「同時に」多くの人々にご自身を現されなさったのであった。使徒パウロは、この事柄、十字架の死と復活の顕現、これが「最も大切なこと」と言っている。そしてそのことを実際に目撃した人が 500 人以上もいたのである。

使徒パウロはこの時の 500 人の目撃者の中には含まれていない。その後パウロは、主イエスの弟子たちを迫害する者であった時に、この復活の主に出会わせられ、回心した。それはダマスコの途上の出来事であった(使徒 9:1-18)。その使徒パウロの出来事は、決して一般化できないほどに歴史上の重要な出来事、そしてそれによって今日のキリスト教世界があると言っても言い過ぎではないほどの出来事である。しかし、そのような復活の主との出会いは、決して最初の目撃者、側近の弟子たちや 500 人の人々に、そして使徒パウロのような特別な人に限られたことではなく、それから 2 千年後を生きるこの私たちにも起こされていることである。

さて今日の御言葉は、復活の主が支持された通りに 11 人の弟子たちがガリラヤに行き、そして「山に」(28:16) のぼったという場面。11 人の弟子たちはその山上で「ひれ伏し」(28:17) た。このひれ伏す姿、大切な主の言葉を頂くときの姿勢として大切なこと。「しかし、疑う者もいた」(28:17) と記されている。復活された主に出会ってもなお、その姿を疑う者が弟子たちの中にいた、ということ。しかしそのような疑いを持つ弟子たちがいても、いや、そういう弟子たちだからこそ、復活のイエス様は次なる言葉を力強く語られる。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」(28:18) と。

その一切の権能をお持ちの方の命令が次に続くもの。「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい」(28:19)。これが第一の命令。すなわち<弟子作り>である。自分の弟子を作るのではない。主イエスの弟子を作ることである。第二の命令は<バプテスマを施すこと>。バプテスマは、信仰の表明と共に「今日からわたしは主の弟子となります!」ということを公に、自

分の周りに表明して、主の弟子たちの輪（教会）に加えられることでもある。第三の命令は**主の教えを守るよう教える**>ということ。主イエスの言葉（教え・戒め）に具体的に従って行動するように教えるのが主の弟子たちの仕事である。

主の弟子を作る、バプテスマへと導く、主の教えを守る様に教える、これら三つの命令が、「大宣教命令」と呼ばれるもの。そしてこれが弟子たち（教会）への至上の使命である。

その大きすぎる使命の前にしり込みする弟子たちもいたのではない。しかしイエス様はそんなことは百も承知であられる。だからイエス様は、そんな彼らに次のように言われる。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(28:20) と。この「いつもあなたがたと共にいる」の「いつも」とは、原語に即して言えば「すべての日々」という意味。

他でもないこの天と地の一切を治める権威者であられる方が共におられる。これ以上の心強さはないはず。使徒言行録1章の記事を見ると、復活されたイエス様が、その後天に昇られる前に弟子たちにある約束をなさっている。それは**聖霊を送る**>という約束。聖霊は神の霊であられ、主イエス・キリストへの信仰を確かにさせ、信仰の実を結ばせてくださる尊い助け手である。

イエス様の大宣教命令に聞き従い実行することも、この聖霊の助けなしには果し得ない。弟子作りやバプテスマ、御言葉による教育の業は、共に働かれる主イエス、助け手である聖霊の伴いがあったて実を結ぶ。わたしたち一人一人、今日あらためて**主の弟子**>として従って歩む決断をしよう。聖霊降臨祭（ペンテコステ）に向かい、聖霊の助けを祈りながら。

【聖書教育より】

「欠けの多い者たちだからこそ、…そこを一緒に歩いてくださるイエスの声を聞いていくことができます。裏切り小心者の弟子たちが他の人を教えられるのか、と言われそうです。…欠けを見据えながら、それでも遣わされるイエスの声に応答するものとなっていきたいと思うのです。」(聖書の学び～3.あなたがたと共に)